

「業務用向け多収性品種の栽培のポイント」

1 はじめに

県では、「需要に応じた米生産による新潟米のブランド化」に向け、業務用米等多様な米づくりにより生産者所得の最大化を図るため、多収穫・コスト低減対策などの取組を支援しています。

平成 30 年度は籾数の不足と登熟の低下で目標収量に届きませんでした。そこで、品種の特性を踏まえた業務用向け多収性品種の栽培管理についてご紹介します。

2 多収性品種の品種特性

業務用向け多収性品種のうるち米には、早生の「ちほみのり」、「ゆきん子舞」、「つきあかり」、晩生の「あきだわら」、「あきあかね」があります。

品種特性は下表のとおりです。

表 1 多収性品種の品種特性一覧（平成 31 年 2 月現在）

品 種 名 来 歴	出 穂 期	成 熟 期	草 型	稈 長	穂 数	一穂 籾 数	耐 倒 伏 性	葉 い も ち	穂 い も ち	穂 発 芽 性	障 害 型 耐 冷 性	品 質	玄 米 の 粒 大	食 味
ちほみのり 奥羽 382 号/青系 157 号	7 月 下	8 月 下	偏穂数	短	やや多	中	強	強	やや強	やや易	中	上の中	やや大	上の中
ゆきん子舞 山形 35 号/新潟 20 号	7 月 下	8 月 末	中間	中	中	やや多	強	中	中	易	やや弱	上の中	中	上の中
つきあかり かばしこ/北陸 200 号//北陸 208 号	7 月 下	8 月 末	偏穂重	やや短	少	やや多	やや強	中	中	難	やや強	上の中	やや大	上の中
あきだわら ミレニシキ/イクヒカリ	8 月 中	9 月 下	偏穂重	やや短	やや少	やや多	やや強	弱	やや弱	やや難	弱	上の中	中	上の中
あきあかね 収 7388/中部 109 号	8 月 中	9 月 下	中間	中	やや多	やや多	やや強	中	やや強	やや難	-	上の中	やや大	上の中

表 2 多収性品種の収穫時期のめやす

8 月	9 月		10 月
下旬	上旬	中旬	下旬
ちほみのり	こしいぶき		あきだわら
ゆきん子舞		コシヒカリBL	あきあかね
つきあかり			新之助

3 栽培管理のポイント

(1) 土づくりの実施

- 多収穫栽培では土壌養分が収奪されやすいので、稲わらの秋すき込みやもみ殻・堆肥・土づくり資材等を積極的に施用しましょう。
- 高収量をあげるには、十分な粒数を確保することが重要です。それに向け、根の健全な発達を促すため耕深 15cm を確実に確保しましょう。

(2) 適正な基肥量及び穂肥量の施用

- 10a 当たりの窒素施用量のめやすは、分施の場合は全品種とも基肥は 7 kg、穂肥 1 回目は 3～4 kg、穂肥 2 回目は 2～3 kg です。過不足無く、地力を踏まえた量を施用しましょう。

特に、粒数確保のため、1 回目の穂肥は遅れずに施用しましょう。なお、「あきあかね」は葉色が淡く推移するので、穂肥量が過剰にならないよう注意しましょう。

- 全量基肥施肥の場合は全品種とも 13 kg をめやすとしましょう。

表3 施肥のめやす

施肥体系	基肥窒素 施用量 (kg/10a)	穂肥 1 回目(窒素)		穂肥 2 回目(窒素)	
		施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)	施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)
分施	7.0	25～23 日	3～4	14 日	2～3
全量基肥施肥	13.0	必要に応じて追肥			

(3) 適期の田植え及び適正な栽植密度の確保

- 初期の生育量を確保するため、適正な栽植密度で適期に田植えをしましょう。
早生は5月上旬に、晩生は5月中旬までに田植えをしましょう。栽植密度は、m²当たり 18 株（坪 60 株セット）にしましょう。また、「つきあかり」は茎数が確保しにくい品種のため、田植え時期や地域によってはm²当たり 21 株（坪 70 株セット）にしましょう。

表4 田植え時期及び栽植密度・1 株苗数のめやす

品種名	田植え時期	栽植密度	1 株苗数
ちほみのり	5 月上旬	18 株/m ² (60 株セット)	3～4 本
ゆきん子舞			
つきあかり			
あきだわら	5 月中旬まで	以上	
あきあかね			

(4) 防除の徹底

- 多収穫栽培は窒素施肥量が多いため、いもち病や紋枯病が多発生しやすくなります。葉いもち防除は必ず育苗箱施用により行い、穂いもち防除は、予防防除を行いましょう。特に「あきだわら」は、いもち病に弱いので防除を徹底しましょう。
また、前年に紋枯病の発生量が多かったほ場では、育苗箱施用等の予防防除を行ってください。

(5) 適正な水管理の実施

- 中干しは、小ヒビが入る程度とし、出穂期1か月前までに終了しましょう。
- 中干し直後は浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行し、出穂期25日後まで飽水管理を継続しましょう。晩生の「あきだわら」、「あきあかね」は通水最終日に十分かん水しましょう。
特に「つきあかり」は、腹白がでやすいため早期の落水はさけましょう。

(6) 適期収穫の実施

- 収穫適期の黄化率割合は、90%になった頃で、積算温度は、早生 950～1,100℃、晩生 1,050～1,100℃がめやすです。

表5 収穫適期の積算温度

品種名	黄化率割合(%)	積算温度(℃)
ちほみのり	90	950～1,000
ゆきん子舞		
つきあかり		1,000～1,100
あきだわら		1,050～1,100
あきあかね		

(7) 低コスト技術の導入

- 多収性品種は、コシヒカリと比較して倒伏しにくいことから、全量基肥施肥や流し込み施肥、直播栽培等の低コスト技術を導入しやすいメリットがあります。地域のほ場条件に応じて、コスト低減技術を積極的に導入してください。



「つきあかり」(新潟県新潟市)

4 おわりに

業務用向けの多収性品種を栽培する皆さんが、品種の特性を理解し、多収栽培のポイントをしっかりと実践することにより、高収量を確保して最大の収入をあげて頂くことを期待します。併せてコスト低減技術に取組み、所得を確保してください。

【経営普及課 農業革新支援担当 高橋 正弘】